

**エマソンの東洋教育**

***Emerson’s Eastern Education***

**後藤　昭次　立教大学名誉教授**

**Authors:**Shoji Goto (Professor Emeritus, Tokyo, Japan)

**Publication Date:**2016年12月既刊

**ISBN:** 978-1-53610-128-7 　**Binding:**Hardcover 　**Price:**$95.00

【著者による解説】

本書のタイトルにある Eastern Education は、エマソンが『プラトン論』のなかで使っていることばで、プラトンは東洋思想を学ぶことで偉大な思想を完成させることができた、それがエマソンの言う「プラトンの東洋教育」です。エマソンもまた、アメリカのプラトンになりたかったのです。

本書はエマソンの著作や超越思想とかかわりのある思想を検討しながら、その思想や方法に近づこうと試みたものです。エマソンは熱烈なプラトン読者であり、またモンテーニュの愛読者でもありました。プラトンを熱愛すると同時に、懐疑を重ねて真理を追究してやまないモンテーニュの方法にも感動し、その根本にある “Go abroad and mix in affairs” という方法をも、極力、自分のものにしたいと望んでいます。新しいアメリカ思想は異質なものを排除してはならない、異質なものを自らの血の中に取り入れることで、新しいアメリカ思想は生まれる、それこそ、エマソン思想の中核となるものです。エマソンを読めば、いたるところに東洋思想の断片や引用文が目に付くのは、そのためです。

関連文献が古典から現代思想まで及んでいるために、読者対象は文学・比較文学専攻の大学院生、上級の学部生ということになるかも知れませんが、文化研究やアメリカ超越主義、哲学の分野に興味を持つ人たちにも興味深いものも多く、また、現代思想との関連ではハイデッカー、デリダ、あるいはレヴィナスなどの思想とのかかわりも取り上げられているので、広く一般読者にもお勧めできるものです。

**Table of Contents:**

Dedication

Acknowledgements 

Foreword

Introduction. Emerson among Orientalists

Chapter 1. Looking for the Law of Nature

Chapter 2. The Eternal One

Chapter 3. Unity and Equality

Epilogue. For the Transcendent Soul   
Bibliography   
Index

書評/ Reviews from other researchers　【著者による翻訳】

「後藤昭次が本書の中で示す研究領域はきわめて広い。エマソンの idealism は単にアジア思想への傾倒を示しているだけではない。それを初めてヨーロッパに導入したのはヨーロッパ人であった。つまりプラトンとヘラクレイトスが、かつてアジアについての対話（dialogues）を書き残しているのであるから、その伝統をエマソンが引き継いでいるのだ。このテーマに向かい合う一人の日本人学者が、幾つもの言語と文化を学び、歴史の深層の中で引き継がれてきた異文化間の対話を真摯に追い求めようとしている。それに付き添うのはまことに感動的なことだ。」

**Phyllis Cole, Pennsylvania State University, USA** 

「日本のアメリカ研究者として知られる後藤教授は、アメリカの超越思想がアジアの古典的な哲学思想と、どのようなかかわりを持ったか、その結果、アメリカの思想はどう変わったか、それをあらためて検討し、新たな結論を導き出している。この綿密で博識な研究は、18世紀ヨーロッパの作家やオリエンタリストたちの影響をたどり、彼らがおこなった東洋文献の研究、翻訳、紹介が、エマソンにおいて “Eastern Education” と呼ばれるものとなり、それによって、斬新なエマソン思想の誕生が可能となった。この類稀な研究書は、国内外の読書界にあって貴重な研究資料となるはずである。」

**Randall Conrad, The Thoreau Project, Lexington, MA, USA** 

「エマソンの『東洋への傾倒』、この博識で総合的な研究において後藤昭次は、エマソンが基本的にプラトンの理想主義の傾倒者であったという一面的な考えには賛成しない。むしろ、ヘラクレイトス、ゾロアスター、ハフィズ（ペルシャの抒情詩人）から、バガヴアッド・ギーターや The Vishnu Purana (ヒンズー教の聖典）に至るまで、驚くほど多数の、これまでに無視されてきた数々の古典思想に親しんでいる。エマソンは絶えず Unityあるいはthe Over-Soul　のような不朽の概念にこだわりながら、多様な外来思想の混淆の中から、やがて明確な思考の様相を見せてゆくアメリカ超越思想を、the “vast and enlarging Hope” に変容させてゆく。それを検証するために本書もまた、エマソンが古い東洋思想を、時には折衷的に読みつつ、それをいかにして創造的な思想に創り上げていったかを検討し、ノートやエッセイ、説教などを広く読み込んで、思考の軌跡を辿っている。」

**Robert D. Habich, Ball State University, USA**

「この見事な博識に基づく研究で後藤教授は、エマソンの“Eastern Education” ともいうべきものを広範な資料と文献の検討によって展開している。エマソンや同時代人が、いかにオリエントを深く取り入れ、それをエマソン自身が『自由で伸びやかな』 Philosophy of fluxions and mobilityと呼ぶ哲学にまで発展させることができたか、その検討において本書の特色は際立っている。これは超越哲学についての斬新な見解と言うべきではないであろうか。」

**Thomas Constantinesco, Université Paris-Diderot / Institut Universitaire de France**  
  
「後藤の研究はきわめて視野が広く、その第一の特色は、エマソンが東洋思想を当時のロマン主義思想にどのようにして合体させていったか、そこから超越思想と呼ばれる思想がどのようにして創造されて行ったか、そこを考究した点にある。古代の知性、とくに古代アジアの知恵に魅せられたエマソン、そして、その思考に迫ろうとする後藤の方法は、エマソン読者には極めて有益なものだ。エマソン哲学とその源流を考察する上で新たな扉を開くものと言える。」

**David M. Robinson, Oregon State University, USA**

お問い合わせ先　Nova Publishers日本販促代理：MKインターナショナル